

緊急地震速報

- あわてずに机などの下に隠(なければ毛布や座布団など)
- 火の始末をする
- 本棚、ロッカー、ガラスなどが
- 家の2階にいたら下におりな
- 避難所などではリーダーらの
- 赤や黄のステッカーがある、
- ているような建物に近づか

地震発生

津波警報

- ・前回被害がなかった地域でも高台へ
- ・高台へ逃げ切れない場合は、
- ・リフト造りなどのビルの3階以
- ・避難所では、リーダーらの指

か戸が過ぎたが、余震など、東日本での活発な地震活動が続いている。被災地では建物の倒壊や津波などに特に注意が必要で、専門家は「落ち着いて正しく行動すれば身を守る」として、建物の状態を確認し、高台

教授(地震地質学)は、「地震のひずみを解消する形で、近い時期に異なるメカニズムでの大地震が起きる可能性がある」という。被災地などでは、大きな余震にどう対応すればいいのだろうか。関西学院大の

などを呼び掛けている。早稲田大の柴山知也教授(海岸工学)は「多くの被災地で防波堤、防潮林が破壊されており、巨大地震で浸水しなかったところにも津波が来る危険性がある」と指摘。「揺

め、外観から建物をチェック。「危険」(赤)、「要注意」(黄)、「調査済み(使用可能)」(緑)の3段階に分け、判定した建物には、色別のステッカーが玄関などに貼られる。特に「赤(危険)」のステッカー

NEW Glico 180g ドロリッチ 抹茶ゼリークリーム in



東日本大震災による大津波では、屋根ぶきに使われる天然スレート(粘板岩)の産地・宮城県石巻市の倉庫が被災し、JR東京駅丸の内駅舎の復元工事のために保管されていた6万枚余りのスレートが流された。駅舎の落成が来年3月に迫り、業者は「なんとか駅舎を完成させたい」と、がれきの中から一枚ずつ拾い集めた。JR東日本は15日、使用できるかどうか現地で調査する考えを明らかにした。

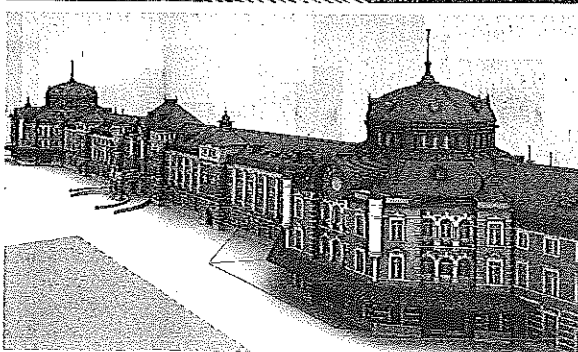
東京駅屋根材 津波で流出

石巻の会社 4万5000枚回収「使って」



重要文化財に指定されている東京駅でも、1914年(大正3年)の創建時は雄勝産が、47年の再建時には登米産がそれぞれ使われた。

現在進められている建て替え工事ではドーム屋根などが復元され、約8000平方分のうち3割に国産、残りはスペイン産のスレートが使われる予定だ



2週間かけ拾い集められた約4万5000枚のスレート(14日、宮城県石巻市の熊谷産業)は、開口寛人撮影。東京駅の復元予想図。屋根部分にスレートが使用される(JR東日本提供)

だが、津波で会社の周辺はがれきの山となり、スレートは2キ四方に散り散りとなった。がれき撤去に重機を使えばスレートが割れてしまう。従業員は朝から晩まで手作業で、2週間かけて約4万5000枚を集め、泥を洗い流した。社長の熊谷秋雄さん(46)は「このスレートで駅再建を手がけ、復興の象徴にしたい」と話した。

JR東、安全性調査へ 東京駅の復元工事にあたる業者と親交のある「赤レンガの東京駅を愛する市民の会」(東京都文京区)の有志は15日、3037人の名簿とともにJR東日本に対し、当初の予定通り被災地のスレートを利用するよう要望書を提出した。JR東は「海水の影響や破損したものがあのかどうか、しっかり確かめたい」としている。

生活成り立たない

00万円より、売り上げを穴埋めして、今頃決めても遅すぎる」と憤った。

町長は「申請窓口は市町村にする」という話があるが、我々は、日常業務だけ

佐藤課長は、東電が問い合わせに合わせるコールセンターの開設を28日としたこ

役場に問い合わせが殺到するのではないかと。発表と同時に開設すべきだったと